

国立国語研究所学術情報リポジトリ

平成16・17年度日本語教育研究プロジェクトコース

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1890

平成 16・17 年度日本語教育研究プロジェクトコース

1. 目的

本コースは、日本語教育に携わる現職者を対象として、日本語教育の改善のために、社会的文脈において日本語教育を位置付けられる広い視野と、日本語教育に関する問題を科学的に追究することのできる専門的知識を身につけた人材を養成することを目的とする。

そのために、日本語および日本語教育に関する研究機関である当国立国語研究所の特性を活かし、研修生が国立国語研究所の実施する日本語教育に関するプロジェクトに参加することを通して、日本語教育研究のための知識や手法を実践的に学びつつ、教育の改善への新たな視点を獲得する機会を提供する。

2. 期間

2005 年 3 月 29 日～12 月 20 日 (16 年度)

2005 年 6 月 1 日～2006 年 3 月 31 日 (17 年度)

3. 研修概要

○16 年度

テーマ「中国語母語話者に対する日本語教育の方法に関する研究」

母語別の日本語教育文法について考える一環として、中国語母語話者向けの日本語教育文法の内容について議論を行う。

○17 年度

テーマ「教師の資質能力向上をめざした共同体の創造—教師教育における内容と方法」

日本語教師の教育において、「養成」のための内容と方法については、長期間にわたって検討がなされてきたが、現職教師がその資質能力を向上させるための「研修」については十分な検討がなされているとは言えない。そこで、平成 17 年度プロジェクトコースでは、各種日本語教育機関において指導的立場にある教師（教師教育実践者）と「研修」に長年取り組んできた国

研の研修スタッフ（教師教育実践者兼教師教育研究者）とが、「研修」について協議する機会を持ち、今後の教師教育のあり方について新たな提案をすることを目指す。

【基本方針】

- (1) 実践を通じた検討
- (2) 相互交渉・協働
- (3) 情報の収集・発信・共有

【研修活動】

日本語教育界における中核的教師の育成を念頭に、国研が実施してきた長期研修・短期研修の実績を基盤として、教師教育の内容や方法、特に、現職教師を対象とする研修について検討する。日本語教育全体の課題を意識しつつ、参加者が所属する組織において、実際に研修を企画・運営しながら、必要とされる研修とは何か、適切な内容・方法はどのようなものかを、参加者相互の情報交換・意見交換を通じて探求する。

本コースの趣旨に照らし、会合の持ち方、相互の連絡の取り方、設定する課題の内容、勉強会の内容・方法、研修成果の公開法等は、参加者が中心となって検討し、決定する。

4. 対象、募集方法、参加人数

○16 年度研修では、一般公募は行わず、一橋大学留学生センターの教官及び中国語を母語とする日本語教師計 6 名と議論を行った。

○17 年度研修では、各自の組織内で実際に現職者向けの研修に関わっているだけでなく、国立国語研究所が実施してきた現職者向け研修の内容や方法について理解している人を対象とすることにより、本コースの趣旨が達成されたと考え、平成 13 年度から平成 16 年度までの上級研修の修了生で組織内研修にすでに関わっている人に本コースの趣旨を説明し、賛同し、参加可能である者が研修生となった。6 名が参加した。

5. 参加資格

- 17年度研修では、上記4. に挙げたことに加え、以下の項目を全て満たすこととした。
- (ア) 原則として、日本語教育機関において、現職者研修・組織内研修に関わっていること。
- (イ) 国立国語研究所のコース担当者、他の参加者との連絡あるいは討議等に電子メールが使えること。
- (ウ) 本コースでの活動経過および成果に関する資料が、国立国語研究所の行う教師教育研究の基礎資料となることを了解すること。

6. 研修経過および成果

- 16年度研修では、主に井上優「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」(野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版)の原稿に対するコメントを求める形で、中国語母語話者に対する日本語教育の方法について議論を行った。
- 17年度研修の経過は以下のとおり。

【全体の経過】

5月12日 打ち合わせ会

本コースに関する概要説明、現職者研修・組織内研修に関するブレインストーミング、本コースの今後の進め方についての相談

6月25日 第1回会合

本コースの目標・内容・方法についての検討、国語研究所施設案内、各自の現状報告、参考文献の紹介

8月11日 第2回会合

各自が取り組む課題や研修についての現状報告・意見交換・情報交換等

9月16日 第3回会合 同上

10月28日 第4回会合 同上

12月2日 第5回会合 同上

1月14日 第6回会合 同上

1月28～29日 勉強会

林伸一氏(山口大学)による、地域の日本語教育ボランティアグループの組織運営及び人材育成についての話、ディスカッション

2月10日 第7回会合

現状報告・意見交換・情報交換等

3月19日 第8回会合

現状報告、研修成果の内容・公表方法についての相談

※会合の会場は、国語研究所、研修参加者の所属機関等である。参加者は全て現職教師であるため、会合は月～金曜日の6時以降が週末に開催した。また、全員が1か所に集まることはできないため、インターネットによる遠隔会議システムを使用した。

【研修生が取り組んだテーマ】

倉本文子「『カイ的授業』を探る会—学習者のための協同」

黒崎 誠「教師個人の成長を組織の成長にどう結びつけるか—『学習する組織』の構築を目指したインフォーマルミーティングの試み—」

中村和弘「教師の向上を促す評価を考える」

野口智充「教師の成長、授業の向上を促す環境づくり—研修担当者にできること—」

丸山伊津紀「学び合い、学び続ける組織づくりを求めて—研修担当者の役割—」

和田礼子「自己満足的教師研修に陥らないための視点について考える」

※成果発表の企画案の提出をもって、以上6名の修了を決定した。

【成果発表】

1. 「教師教育における内容と方法を考えるラウンドテーブル—教師の資質能力向上を支える共同体の創造をめざして」(2006年5月14日予定)の実施

各自の研修成果を発表し、それをもとに参加者とともに現職研修・組織内研修の課題について検討する会を催す。

2. 報告書の作成

研修成果及び上記ラウンドテーブルの成果をもとに、報告書を作成し、ウェブ上で公開する。

(記：金田智子・井上 優)